

## 人材育成委員会の活動概要

### 目標

老若男女を問わず、誰でも専門性を活かして貢献できる社会の構築を目標としています。教育、若手人材、男女共同参画、社会貢献の4テーマのもと、特別顧問やサポーターとも協力しながら、委員を中心として実質的な幅広い活動を行っています。大きな社会的影響力を持つ応用物理学会において活動を行うことで、学会の活性化、ひいては社会の活性化に寄与したいと考えています。

### 設立の経緯

2001年2月 男女共同参画ネットワーク準備委員会を発足  
2001年7月 「男女共同参画委員会」設立  
2006年3月 「人材育成・男女共同参画委員会」へ発展的改称  
2011年4月 「人材育成・教育事業委員会」へ改組  
2012年2月 「人材育成委員会」へ改称  
2014年 委員長：為近恵美、副委員長：高井まどか

### 男女共同参画活動

応用物理学会では、これまで様々な男女共同参画事業に先進的に取り組んできました。そのひとつが学会講演会期間中の託児室の運営です。2005年の春季・秋季学術講演会より設置された託児室には、すでに100名を大きく超える利用者があり、昨年度からは講演会事業の一環として運営されることになってすっかり定着しました。このような活動は、会員が所属する大学や企業においても、子供を連れて学会へ参加することへの理解が前進することにも貢献しています。

### 研究者ネットワークの強化

2013年より、女性会員を中心とした研究者のネットワークの活性化を目指して、女子だけではなく「女子会」を開催しています。孤立しがちな女性会員をサポートし、ネットワークの力で盛り立てていく役割を担っています。男性会員も参加することで、ワークアンドライフバランスを考える機会の提供にもなっています。

### 表彰事業

2009年に女性研究者奨励育成貢献賞(小館賞)が設立され、2011年には、「女性研究者研究業績・人材育成賞」に名称変更を行いました。A部門：学会活動を通して応用物理学の研究活動において著しい成果をあげた女性研究者、B部門：男女共同参画活動の推進・人材育成に貢献することで科学技術の発展に多大な寄与した研究者を対象に表彰しています。

### シンポジウムの開催

春季・秋季学術講演会において2001年より人材育成および男女共同参画に関するシンポジウムを開催しています。

2013年春は、応用物理学会の初の試みとして、女性研究者のみによるシンポジウムを企画しました。大盛況となった第1回につづき、2014年春は「フォトニクス」をテーマにたくさんの方々にご来場いただきました。テーマごとに開催することで、研究発表内容の重要性だけでなく、ロールモデルの提示や、様々なキャリアパスの紹介などの役割も担っています。



### 「理系出身の女性たち」HPおよび「応用物理分野のキャリアデザイン(ロールモデル集)」

女性・若手研究者の将来像の一端となり、有効な励ましになれば、との思いから応用物理学会HPにて「理系出身の女性たち」ページを設置、女性研究者のロールモデルの紹介を行っています。

また、応用物理分野の男女の研究者によるロールモデル集を作成し、キャリアデザインの紹介をしています。

### 国際交流

2008年IUPAP-WGIにて講演、2010年ASEPSにてポスター発表を行いました。2013年には、APPC12 (The 12<sup>th</sup> Asia Pacific Physics Conference of AAPPS)のWIPにて講演を行いました。

2014年8月には、カナダで開催された国際会議5th International Conference for Women in Physicsにて招待講演、ポスター発表を行いました。女性に対する無意識のバイアスの周知や、ジェンダーアンバランスな国際会議の自主的なボイコットなどで、IUPAPを中心に世界的に協力する土台作りが出来てきています。



### 中高生の理系進路選択支援

女子中高生の理系進路選択の支援を目的として、女子中高生と科学研究者・技術者、理系大学生・大学院生と交流し、理系の魅力を伝える場として2008年から「女子中高生夏の学校～科学・技術者のたまごたちへ～」を共催しています。キャリア講演、サイエンスアドベンチャー(科学探検隊)での実験、ポスターセッション等を通して多くの女子中高生の皆さんとの交流の場を広げています。



キャリア講演



実験の様子

### 産学連携

近年の電機業界の業績低迷と共に企業参加者数の減少傾向が続いていることから、産業と工学を結ぶ場としての学会の役割が危機的な状況になってきています。産官学連携を戦略的にサポートするために、学会開催時にくるま座、シンポジウムを開催し、産学連携の重要性を啓蒙すると共に、実効的連携の仕組み形成を模索しています。

### 若手研究者の育成・支援／社会貢献

応用物理学会では、学生・生徒の理科離れ、ポスドク問題が表面化するなかで、さまざまな教育活動や若手研究者支援に取り組んできました。博士のキャリア相談会やスチューデント・チャプターなど活動はさまざまです。スチューデント・チャプターは立ち上げのあと、会員サービス委員会に移管され学生による自主的な活動が順調にスタートしました。

### キャリア相談会の実施

2008年秋季より博士人材と求人側の直接的なインターセクションの場を提供する「博士(プレ、ポストを含む)のためのキャリア相談会」を春季・秋季学術講演会において開催しています。

各回十数機関からのキャリアアドバイザーブースが開設され、100名を大きく超える来場者に恵まれ、活発な交流が行われています。



博士のキャリア相談会ポスターより

### キャリア・エクスプローラーマークの導入

求職側であるポスドクあるいは学生と、求人側である企業・大学・研究所の交流の場でもある学術講演会において、講演者が求職中であることを明示できるよう、2008年の春季講演会より **キャリア・エクスプローラーマーク**(CEマーク)の運用を開始しました。発表者である求職中のポスドク・学生はCEマークをプログラムや予稿集、ポスター、発表用資料などに表示することができます。この活動はNature誌でも紹介されました。

### 応用物理分野の将来ビジョン

#### アカデミックロードマップ(人材育成)の作成

人材育成クラスターでは、「科学技術創造立国」を推し進めるべく、次世代を担う科学者・技術者の育成を目標とし、2008年に「間口を広げる」「女性研究者」「トップを上げる」「産学連携」の4つの観点からロードマップをまとめました。2010年にはこのマップの見直し、横断型マップ・発展系マップを作成し、具体的な提言を行っています。

詳細は下記HPをご覧ください。

公益社団法人 応用物理学会 人材育成委員会  
<http://www.jsap.or.jp/activities/education/index.html>

### リフレッシュ理科教室

(1)被災地支援支部連携

2013年6月28日に、仙台市立中野小学校の生徒を対象として、被災地支援理科工作教室を実施しました。

(2)支部・学会連携

2013年7月5日に長野県麻績村立麻績小学校で、応用物理学会北陸・信越支部、東海支部と電気学会東海支部連携の理科教室を開催しました。

